

ふりかえり会議（事後検証）コーディネーター意見書

■ 事業名：多文化共生コミュニティ・ビジネス事業 愛伝舎

■ コーディネーター氏名（所属）：吉島隆子（NPO法人 コミュニティ・シクタンク「評価みえ」）

■ ふりかえり会議開催年月日：平成 18 年 3 月 23 日

1. 協働の状況について

（協働の妥当性・パートナー選択・資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性の視点から）
 協働の妥当性については問題ないが、当初の話し合いがなされていないため、当事者の理解に差があった。NPO側は方向性の確認や責任分担などがなされないまま事業を進めざるをえない状況にあり、行政側に協働事業への認識・対応が欠けていた。そのためNPO側は対話を望み、戸惑いつつも事業を遂行している。

2. 実施事業の状況について

（戦略性（計画性）・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）
 生活者としての在住外国人という社会的な課題に先駆的に取り組むコミュニティ・ビジネス事業であるため、1年弱という期間でどうにかなるものではないが、方向性や問題点の把握というトライアル的な事業としては有効であったと思われる。日本社会の受け入れ態勢不備から起こるであろうさまざまなトラブルを回避し、社会全体のリスク軽減のために、通訳、翻訳、行政手続を手始めに将来戦略も考えており、継続性についても強い意志を感じた。

3. 事業実施体制について

（資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）
 とくに問題は起こらなかったが、協働事業では当初の話し合いがなされないまま事業を進行したことが事業終了まで影を落とす。本事業のような先駆的事业から得られる課題解決へのヒントは行政への重要な示唆となる。NPO側が県の多文化共生への取り組みがどう進められていくのか、また国際室のみならず関係部署がどうネットワークを組むのか、総合的な窓口はどこになるのか、もどかしさを感じると共に問いかけており、行政側は今後、引き続いて真摯な対応をされたい。

4. 活動領域について

（資源配分と責任分担の視点から）

現状の活動領域	目指すべき活動領域
B 3	C

公の活動領域

					私的 領域 (市場)
行政が担う公			県民が担う公		
A	B 1	B 2	B 3	C	

公の活動領域の考え方

Aの領域：行政だけで担っている領域

Bの領域：県民と行政が共に担っている領域

B 1：行政が主となり県民が参加参画協力する領域

B 2：県民と行政がそれぞれ役割分担する領域

B 3：県民が主となり行政が支援している領域

Cの領域：県民だけで担っている領域

ふりかえり会議コーディネーター意見書

■ 事業名：「人類愛 愛は伝わる」

■ コーディネーター氏名（所属）： 安村 富子

（みえ市民活動ボランティアセンター 市民プロデューサー）

■ ふりかえり会議開催年月日：平成 18 年 3 月 23 日

1. 協働の状況について

（協働の妥当性・パートナー選択・資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性の視点から）

代表は職業上、外国人の生活上の悩みを聞く事が多く、これをサポートするシステムがない事を実感。公共性のある問題を行政と協働し、受益者負担のコミュニティービジネスを通じて社会的リスクの解決を目指した。国際室は、委託と受託という役割分担を意識して事務的な話し合いはしてきたが、協働事業の中で県の方針まで明確に示すことはできなかった。行政における多文化共生事業に対する位置づけがあいまいで、身近な国際問題をどう解決していくのか、受託者として一番の関心懸念事項が積み残されたままである。

2. 実施事業の状況について

（戦略性（計画性）・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）

行政手続き目的で団体事務所にやってきて、さまざまな生活上の悩みを打ち明けられる。事業を通じて鈴鹿市や保健所とネットワークを築く事ができ、さまざまな機会に「愛伝舎」の取り組みが広報されるというメリットもあったけれど収入という点ではまだまだ途上段階である。委託者としては今後ビジネスとして発展してもらうことを期待し、今回はそのための支援として考えていた。一方、企業としての営業努力も求められる中、事業の立ち上げ時に双方で十分な話し合いがされていれば、もっと効果的な事業ができたのではないかというのが受託者の思いではないだろうか。双方ともビジネスとして継続することで一致している。

3. 事業実施体制について

（資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）

相互の意思疎通に若干問題があり中間期でのふりかえりがなされていれば、その後は防げたかもしれない。多文化共生という大きな社会問題に取り組むにあたって、実施組織に対する行政からの十分なサポートがないままに終了したことに対する失望感が感じられた。今回単に事業をするだけでなく、公としてどのようにこの問題に取り組んでいくのか、その姿勢を問われていたのだが、行政に対する委託側からの不信感をどう払拭していくのか。第三者を交えて双方の思いが共有されるような機会を頻繁に設けることが課題として残された。

4. 活動領域について

(資源配分と責任分担の視点から)

現状の活動領域	目指すべき活動領域
B2	B3

公の活動領域

	行政が担う公		県民が担う公		私的 領域 (市場)
A	B1	B2	B3	C	

公の活動領域の考え方

Aの領域：行政だけで担っている領域

Bの領域：県民と行政が共に担っている領域

B1：行政が主となり県民が参加参画協力する領域

B2：県民と行政がそれぞれ役割分担する領域

B3：県民が主となり行政が支援している領域

Cの領域：県民だけで担っている領域